

第 56 回日本臨床検査医学会学術集会

(平成 21 年 8 月 26 日～29 日)

松野 一彦*

このたび平成 21 年度の第 56 回日本臨床検査医学会学術集会の会長を務めさせていただくことになりました。ご存じのように、日本臨床検査医学会は、前身が日本臨床病理学会で、昭和 26 年に臨床病理懇談会として発足し、昭和 29 年に第 1 回総会を開催した歴史ある学会で、臨床検査専門医、臨床検査技師、各科の臨床医、臨床検査に関係する企業および研究所の方々に参加する学会です。臨床検査技師を教育する大学、大学院、短期大学、専門学校などの養成施設の教員あるいは学生も重要な構成メンバーであり、今回初めて養成施設の教員として会長を務めることになりました。

第 56 回日本臨床検査医学会学術集会は、平成 21 年 8 月 26 日(水)～29 日(土)に札幌コンベンションセンターにて開催します。8 月下旬の札幌は、夏の暑さもほぼ終わり、最高気温 25～28℃、最低気温 17～20℃ 位の過ごしやすい気候になっております。今回の学術集会テーマは「拡大する検査の力」としました。その意味するところは、現在の臨床検査は、遺伝子関連検査など検査の範囲も拡大するとともに、病院の中では院内感染対策、栄養管理、リスクマネージメント等々検査周辺分野へも臨床検査の重要性が広がっています。本学術集会では、このような拡大する検査の実力をアピールする意味で、このようなテーマを掲げ、

関連学会との共催シンポジウムを充実させる予定です。

もちろん、過去数年続いております日本臨床検査学教育学会との共催シンポジウムも企画しております。現在テーマを準備中です。これからさらに進歩を遂げるであろう臨床検査を担う将来の臨床検査技師を教育する私たちは、積極的に日本臨床検査医学会に参加し、これからの我が国で進むべき臨床検査の姿を踏まえた教育が必要なのではないかと考えております。また、最近本学会での学生の発表が増加している様です。若いうちから、臨床検査の実務ならびに研究のレベルを知ることが大変望ましいことと思います。第 56 回学術集会では、修士課程、博士課程の大学院生も含めてすべての学生の参加費を 3,000 円とし、より多くの参加をお待ちしております。

教員の皆様方につきましても、臨床検査技師教育に関する一般演題を大歓迎いたします。例年の学術集会よりも開催時期が 3 ヶ月ほど早くなっているため、一般演題の登録時期が平成 21 年 2 月 1 日(日)～3 月 31 日(月)までと早まっておりますので、よろしくお願い致します。

なお、学術集会の詳細につきましては決定した事項から、学術集会ホームページ(<http://www.congre.co.jp/islm2009/>)に掲載いたしますので、ご参照下さい。よろしくお願い申し上げます。

*第 56 回日本臨床検査医学会学術集会 会長

北海道大学大学院保健科学研究所 病態解析学分野 kazu@hs.hokudai.ac.jp